

## 令和3年度 地域ケア・地域看護推進委員会 活動報告

<b>■委員名</b>	<p>委員長：久山かおる 副委員長：小川かおり 委員：濱田智子・住田博美・茨木ゆかり・笹山留美・菅原かおり・森本敦子 永良直子・出口里美・藤原恵美子・大迫しのぶ</p>
<b>■開催回数</b>	4回
<b>■活動目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看看連携の現状を把握し、課題を明らかにする。</li> <li>2. 地域包括ケアシステム推進における看看連携のネットワークを明らかにし、専門性を発揮した看看連携の強化を図る。</li> </ol>
<b>■活動内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本委員会における看看連携の定義と目的について検討した。</li> <li>・各支部と委員の連携により、地域で活動している看看連携・多職種連携ネットワークの情報を収集した。</li> <li>・看看連携のネットワークの一覧表を作成し、可視化した。</li> <li>・県内の多様な場で勤務する看護職への、ネットワークの周知方法を検討した。</li> </ul>
<b>■活動の評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「看看連携」の定義と目的を整理し、活動の方向性を定めることができた。</li> <li>・活動している看看連携と多職種連携のネットワークを、支部との連携により、リストアップした。</li> <li>・ネットワークの一覧表を作成したことにより、看護師も構成員となっている多職種連携の会が多く、看看連携は少ないことがわかった。各支部において先駆的な事例が実践されているが、その情報が周知されていない状況が明確になった。</li> <li>・委員は情報収集および支部の連携の状況を対面やメール、郵送などにより情報収集を行い、委員会後には活動内容を支部に伝達し周知ができた。委員会の活動内容や支部のネットワークについて報告会などを開催し、支部との連携が広がった。この、委員が各支部で情報収集と情報共有をしていく過程が、支部の看看連携を推進し、ネットワーク構築の一助となった。</li> </ul>
<b>■今後の課題</b>	<p>看看連携においては、看護職間の情報共有の場が少ないこと、支部の圏域が広く組織的に動くことの難しさがある。支部・地域の実情に応じて情報の周知を行い、看看連携のネットワークを強化していく必要がある。2040年に向かっては、まず、現在取り組んでいる地域包括ケアに向けての取り組みを深めていく。支部または地域の医療福祉の実情に即した規模での看看連携を行い、実践の成果を明らかにしていく。地域の成功事例を定期的に共有する。併せて患者を生活者としてとらえることや患者の生活をイメージして看護することは、地域包括ケアシステムの一翼を担う看護師の重要な役割である。そのための周知方法について検討していく。一方、在宅における看護提供体制を強化のために、離職を希望する看護職についての地域循環型の再就職支援の体制を病院、在宅間の連携などについて検討していく。</p>